

ICAN Monthly Report 12



絵手紙展示会の様子 (mozo ワンダーシティ/名古屋市西区)

絵手紙で伝えたい、子どもたちの「笑顔の源」

<国際理解教育事業：担当職員からのレポート>

日本事務局で国際理解教育事業を担当している中村です。日本とフィリピンの子どもの相互理解を促進する絵手紙大会「Tulay Project (トゥライ・プロジェクト)」は、今年で7回目を迎えました。

この活動は、その年の絵手紙のテーマを決めることから始まります。今年6月、10以上の案の中から、「私を笑顔にするもの」をテーマに決めました。子どもたちに、自分の「笑顔の源」を思い返し、自分にとって大切なものの存在を再認識してもらいたい、更に、他の人の「笑顔の源」を知ることによって、自分が気づいていなかった、身近にあるものの大切さを知ってもらいたいと考えたことが、主な理由でした。

その後、愛知県内の小中学校と高校、フィリピンの事業地や学校に参加を呼びかけ、集まった絵手紙は4,760枚になりました。この一大プロジェクトを、絵手紙の交換という双方向のやり取りのみに終わらせず、広く一般の方の国際理解促進にもつなげるため、11月10日から15日の6日間、愛知県名古屋市内の大型ショッピングモール「mozo ワンダーシティ」において、展示会を開催しました。

開催期間中、約3,200名の方が会場に立ち寄られ、両国の子どもたちが描いた絵や、添えられたメッセージを見ていただきました。友達、ペット、音楽、スポーツ、風景などの絵が多い中、来場者の方の感想として多かったのは、フィリピンの子どもの絵手紙には、家族や家、学校、文房具が描かれたものが数多くあることについてでした。「人にとって大切なものは何か、改めて考えさせられた」、「当たり前にある鉛筆一本から、大切なものなのですね」といった声が聞かれました。

国や文化、生活環境が違っていても、人として大切なものには共通するものがあり、まずそれを知ることが、社会にある共通の課題にとともに取り組もうという意識にもつながると考えます。今回の絵手紙大会で、子どもたちは、地球上の誰にとっても大切なものを教えてくれました。この絵手紙を双方国の子どもたちに届け、相互理解を促進し、社会における課題解決への意識の醸成につなげていきます。

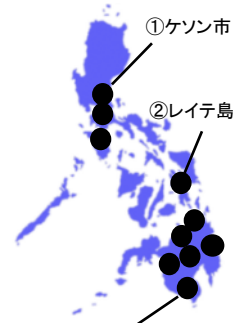
マンスリーパートナーになっていただくことで、国際理解教育事業も応援いただけます。

マンスリーパートナーは、月々1,000円から始められるご寄付の制度です。詳しくは、ホームページ(<http://www.ican.or.jp/>)、または、本紙裏面の「今月のNews」をご覧ください、ご不明な点等については、下記までお問い合わせください。



ICAN 日本事務局
中村由実子 (なかもらゆみこ)
～プロフィール～
愛知教育大学卒業後、医療・福祉機器の商社、ODA関連の財団法人に勤務。英国イーストアングリア大学国際開発学修士課程を経て、2012年12月より現職。

Project Site



③ジェネラルサントス市

※●は ICAN 活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人アイキャン ※2014年12月より、団体名を変更しました。(旧名称：アジア日本相互交流センター・ICAN)

日本事務局：愛知県名古屋市市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX：052-253-7299 メール：info@ican.or.jp

*フェイスブックを通じて、事業地の進捗報告を随時お届けしています。 <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

① 路上の子どもたち(ケソン)



カフェの接客は笑顔で

カフェの運営を目指す路上の若者4名が、マニラの社会起業レストラン・ユニカセで研修を受けました。最初は緊張していたレンシー君(17歳)は、「お客様と接する際、自信をもち、笑顔でアイコンタクトを取ることが大切だと学んだ」と語りました。(11月8日)

② 災害の影響を受けた子どもたち(レイテ)



新しい家で、クリスマスを迎える

事業を開始した昨年12月から目標にしていたドゥラグ町北16村の全壊世帯の修復が完了しました。ドキザさん(69歳)「今年は、家族と一緒に新しい家でクリスマスを迎える」と喜び、星などの飾りを玄関や壁に飾っていました。(11月14日)

③ ジェネラルサントスの子どもたち



奨学生としての誇りを胸に

小学1年の時からアイキャンの奨学生となり、今年大学を卒業したアルジュン君(21歳)が、教員国家試験に合格しました。合格通知を受けて飛び上がって喜んだというアルジュン君は、「日本のパートナーには言葉で言い表せない程感謝している」と語りました。(11月21日)

今月の ICAN を増やす活動

スマイルチケット／語学教室事業

11月19日／名古屋

タガログ語クラス増設

チャリティ語学教室「スマイルチケット」のタガログ語クラスを増設し、新しい講師も加わりました。新規入会の生徒のAさんは、このクラスと英語クラスの受講で週2回通われることに。「来年のスタディツアーまでに上達させて、子どもたちと話したい」と意気込んでいます。



帰国報告会／国際理解教育事業

11月8日、22日／名古屋

駐在職員の声を伝える

8日にレイテ事務所の福田が、22日にマニラ事務所の岩下が、帰国報告会を行いました。参加者からは、「子どもたちが厳しい環境に置かれながらも必死に生きていこうとする姿が印象に残った」、「スタッフとの信頼関係が子どもを救っていると感じた」などの感想を頂きました。



今月の News

携帯電話やクレジットカードでご寄付いただけるようになりました！ 書き損じハガキも継続募集中です

マンスリーパートナーや、路上の子どもの保護施設、台風被災地復興事業へのご寄付の方法が増えました。ぜひご利用ください。

A) クレジットカードのポイントも貯まる！

日本財団
「CANPAN 決済サービス」

<http://kessai.canpan.info/org/ican/>



B) いつでもどこでも気軽にできる！

ソフトバンク
「かざして募金」



C) 余った年賀ハガキも役に立つ！

「書き損じハガキ回収活動」

下記、日本事務局までご郵送ください。

〒460-0011 名古屋市中区大須 3-5-4

矢場町パークビル9階 アイキャン宛



今月の ICAN 名人

◎ 朝木さん、素敵なメッセージをありがとうございました！

マンスリーパートナー 朝木真実さん

「間接的にでも、『できること』をしたい」

インタビュー:11月1日

アイキャンとの出会いは、2011年スタディツアーでした。数あるツアーの中でもアイキャンを選んだ理由は、ホームページにたくさんの情報があつたことと、5日間で行きやすかつたからです。ツアーでは、子どもたちとの交流が印象に残っています。ダンスや歌が上手で、将来に向けていろいろ可能性があると感じた一方、学校に行ける環境がなく、その可能性を伸ばすことができないことをもどかしく感じました。この状況を何とかしたいと思い、日本に帰り、マンスリーパートナーに申し込みました。今もパートナーとして応援しつつ、時々日本事務局のボランティアをしています。フィリピンで子どもたちと過ごした時間はわずかですが、その出会いがあつたからこそ、様々な思いを抱き、私にできることを考えさせられました。素敵な出会いをありがとう、と伝えたいです。



編集者から一言: 次のスタディツアーは、2015年3月4～8日と3月18～22日の2回です。朝木さんのようにフィリピンの子供にも会いに行きませんか？